

上下水道事業経営評価制度等に関する意見

－平成 24 年度経営評価(平成 23 年度事業)等について－

京都市上下水道事業経営評価審議委員会

平成 25 年 2 月

上下水道事業の経営評価については、当審議委員会の意見等を踏まえ、年々改善が図られてきたことから、その内容は大変充実したものとなっている。

こうした状況から、今年度の審議委員会においては、改めて制度全体を見渡し、今後の経営評価のあり方や経営評価の効果的な広報広聴を中心に審議し、意見を取りまとめたものである。

具体的な意見は本文に示すが、上下水道事業を取り巻く昨今の厳しい経営環境の中、来年度から新たな経営計画がスタートすることも見据え、より一層上下水道事業の推進に資する経営評価となるよう取り組まれたい。

1 上下水道事業経営評価冊子について

平成24年度の経営評価の本冊においては、昨年度の「上下水道事業経営評価制度等に関する意見」等を踏まえた改善として、「京（みやこ）の水ビジョン」に掲げた上下水道事業の基本理念や水道事業と公共下水道事業の財務諸表を一体的に表した「上下水道事業連結財務諸表」の記載など、上下水道事業全体の理解を高めるための充実が図られている。

また、概要版では、「上下水道事業経営戦略」の概要等を記載するとともに、経営評価とは別に「山ノ内浄水場廃止に伴う給水区域切替え」についてトピックスとして取り上げ、事業の必要性とその財政効果について記載するなど、市民に身近で重要な事業を分かりやすく紹介し、上下水道事業に関心を持ちやすい工夫がされているほか、色遣いやイラスト配置についても更に見やすく改善されている。

こうした改善等を重ねることにより、経営評価冊子は年々充実したものとなつており、特に、本冊については、経営評価の結果が詳細に記載されている。しかし、詳細な内容となることで専門性が高まり、結果として一般には分かりにくい面やグラフ等のデータと解説の整合性が不十分な点も見受けられる。

今後、経営評価を冊子としてまとめるに当たっては、記載すべき内容の整理や正確性にも留意するとともに、上下水道事業を取り巻く厳しい現状や課題についてもしっかりと伝えていくよう努められたい。また、概要版については、広く市民等を対象とする冊子であることから、提供すべき情報の絞り込みや、説明が難しい専門的なことはイラストやイメージ図で表現するとともに、取組項目評価のA～Eの5段階評価を簡潔な文章での表現とするなど、更に分かりやすく伝える工夫を検討されたい。

2 今後の経営評価のあり方について

上下水道事業は、従来から、複数年にわたる中・長期の計画を基に事業を推進しているが、現在の経営評価は、単年度の事業実績に対する評価であり、中・長期計画に対する個々の事業の進捗状況については対象としていない。

短期的な視点からは、個々の事業を1年ごとに区切り、単年度の目標に対する達成度を評価することは事業の着実な推進のために必要である。また、災害や事故など様々な状況の変化等に対応するためには、優先順位等を見極めて時宜に応じた計画の見直し等の柔軟な対応も重要である。

一方、長期的な視点からの経営評価についても、市民の上下水道事業に対する理解はもとより、上下水道局自らが事業全体の進捗状況などについて再認識するという意味においても有効であり、実施について検討されたい。

また、経営評価において、第三者の視点は重要であり、当審議委員会も経営評価の制度や手法について助言・提案する第三者機関として一定の役割を果たしている。しかし、更に経営評価の結果の客觀性・信頼性を高めるためには、上下水道局が行う自己評価に対して実施段階において第三者機関が直接関与することが考えられるが、そのためには、評価者に事業に対する高い専門性等が求められることになる。一方、当審議委員会の中でも、これまでどおり、実際に事業を計画し推進する行政が自己評価を行い、それを市民に的確に伝えていくことが適切との考え方もある。

このような課題等も踏まえたうえで、経営評価に対して第三者機関が関与するに当たっては、対象や手法をどのようにするのか、またそれに応じて、専門家だけなのか、一般的の市民も参加してもらうのか等、十分に検討を行い、実施の可否を判断されたい。また、これらの検討に当たっては、他都市の状況や民間の視点、費用対効果なども考慮し、取り組まれたい。

3 経営評価の効果的な広報広聴について

広報に関しては、行政には様々な情報をできるだけ多く伝えようとする傾向があるが、情報発信に当たっては、情報の受け手の立場に立ち、どのような情報が求められているのか、どのような情報を伝えるべきなのかを考えたうえで、テーマを絞るなどにより、わかりやすく伝える工夫を検討されたい。

情報発信の方法については、絶対的なものがあるわけではなく、例えば、年配の方には、「市民しんぶん」などの広報が、また、若い世代にはツイッターやホームページなどインターネットを使用した広報が効果的であるなど、年代に応じた方法等を検討し、多様な媒体を組み合わせながら、情報の整合性を十分に図ったうえで、効果的な情報発信に取り組まれたい。

また、上下水道局のマスコットキャラクター（「澄都くん」と「ひかりちゃん」）を活用することも、幅広い世代に経営評価や上下水道事業に興味を持っていただける方法として有用であると考えられる。

広聴に関しては、経営評価に関する市民等からの意見がほとんどないのが現状であるが、市民等からの主体的な動きを求めるることは大変難しいことであり、何

か特典を設けて反応を引き出すなど、情報発信と合わせて様々な工夫を検討されたい。

4 上下水道局企業改革プログラムについて

企業改革プログラムについては、平成21年度から取組を継続して進められてきたが、平成23年度取組実績の報告によると全体としては概ね計画どおり進捗が図られている。

同プログラムは、今年度で最終年度となるが、計画期間の終了まで、着実に取組を進めるとともに、5つの改革に掲げた取組項目等について、課題等を十分検証し、必要に応じて、新たな経営計画に盛り込むなど、プログラムの趣旨を踏まえて、市民のための上下水道事業の運営のための改革を継続されたい。

<審議経過>

開催回	年 月 日	主 な 内 容
第1回	平成24年11月6日(火)	・平成24年度経営評価(平成23年度事業)に関する報告 ・経営評価制度の充実等に向けた審議
第2回	平成24年12月25日(火)	・経営評価制度の充実等に向けた審議
第3回	平成25年1月23日(水)	・上下水道事業経営評価制度等に関する意見(案)の審議

<委員名簿>

(五十音順, 敬称略)

氏 名	役 職 等
えちご しんや 越後 信哉	京都大学准教授(大学院工学研究科)
にしむら ふみたけ 西村 文武	京都大学准教授(大学院工学研究科)
のがみ みきあ 野上 幹夫	公益社団法人京都工業会理事・事務局長
はやし しげみ 林 しげみ	上下水道サポーター
まえおか てるき 前岡 照紀	税理士
みずたに ふみとし 水谷 文俊	神戸大学教授(大学院経営学研究科)

:委員長, :副委員長

上下水道サポーターは, 施設見学やアンケート調査等の活動を行う上下水道モニター(毎年度, 市民の皆様から公募。任期は当該年度)として御活動いただいた方のうち, 引き続き, 上下水道事業に御協力を頂いている方です。